

避難行動の確認を!!

水害は、いつどこで起きてもおかしくない!

山形市内を流れる河川では、堤防の強化や河川の断面を大きくするなどの改修が現在も行われており、以前よりも確実に洪水対策は進んでいます。一方で、近年、想定を超える大雨や局地的豪雨により、全国各地で毎年のように水害が発生しており、私たちの身近なところでも洪水の危険性が高まっています。

令和6年7月には、須川の水が流入する最上川で水があふれ、浸水被害が発生するなど、身近な地域で水害が起っています。

災害時には、自分や家族の身に危険が迫る前に「逃げる」ことが重要です。ご自分の状況にあった避難行動を確認し、早めの避難を心がけてください。

「洪水ハザードマップ」

これまで、山形市では市内を流れる国や山形県が管理する主要な河川(洪水予報河川や水位周知河川)の洪水浸水想定区域と避難場所が確認できる洪水ハザードマップを公開してきましたが、令和6年には、山形県が管理する市内の中小河川の洪水浸水想定区域図が公表され、令和7年に、山形市の雨水出水浸水想定区域図を新たに公表しました。

今回、新たに追加された洪水浸水想定区域と雨水出水浸水想定区域を洪水ハザードマップに加え、想定最大規模の降雨が発生した場合に、山形市内で浸水が発生する恐れのある区域と避難場所が確認できるように一つの冊子にまとめました。

「洪水浸水想定区域」

洪水浸水想定区域とは、河川が氾濫した際に浸水する恐れがある区域と浸水深を表したもので、洪水ハザードマップの基本情報となります。洪水ハザードマップでは、想定最大規模の降雨(1,000年に1回程度発生する大雨*)が発生した場合を想定しています。

「雨水出水浸水想定区域」

雨水出水浸水想定区域とは、雨水管や側溝等が、雨水を排除しきれなくなることで市街地で発生する恐れのある浸水の区域や深さを表したものです。洪水浸水想定区域と同様に、想定最大規模の降雨(山形市内の総雨量150mm/hr)が発生した場合を想定しています。

注意

水害時には、予想を超えた浸水範囲や水深となることがあります。本誌ハザードマップ以外の場所でも洪水が起こる可能性があるため、中小河川・堰(用水路)・側溝などにも注意して、早めの避難を心がけましょう。

※1 1年間に発生する確率が1/1,000程度の大雨のことで、1度発生するとその後の残りの期間は発生しないというわけではありません。

「洪水ハザードマップの使い方」

洪水は、いつ発生するかわかりません。「洪水ハザードマップ」は、万が一!というとき、皆様に安全に避難していただくことを目的に作られています。よく読んで、避難場所や避難経路をあらかじめ調べておきましょう。

STEP1からSTEP3まで確認!

避難行動の確認

STEP1

自分の家を確認する

地区索引表(P.7~P.10)や分割図から拡大図を探して、自分の家や職場の場所を確認する。



STEP2

浸水する深さや危険箇所を確認する

拡大図を確認して浸水が想定される区域や早期に避難が必要な場所を確認する。
土砂災害や道路アンダーパスなどの危険箇所を確認する。
(凡例の解説はP.3~P.5)



STEP3

避難場所を確認する

自分の避難場所を確認して、避難経路を確認する。避難経路上に危険箇所はないか確認する。
(凡例の解説はP.4~P.5)

避難行動計画を作成

自分の避難地図を作成する

作成方法はP.88

マイ・タイムラインを作成する

作成方法はP.89~P.92